

クルアーンにおける漸進主義

ムスリムの皆様。ご存知のように、イスラーム教は 23 年間のうちに完成されました。この時期において、命令や禁止事項が時間をかけて公布されていき、ここでは漸進主義が適用されていました。漸進とは、ゆっくりと、徐々に浸透させていきながら進む、というような意味になります。

クルアーンで、最初時期に啓示されたのは、アッラーの唯一性、来世の存在、天国と地獄が当然必要であることなど、信仰に関する事柄を示す章句でした。時の経過に従って、そして信者たちが信仰が責任を負うことのできる段階に達するに従って、アッラーの英知により、その時々にはふさわしい命令や禁止事項が下されるようになったのです。信者たちも、これらの命令や禁止事項に従うことにそれほど苦労しませんでした。

例えば、頭を覆うことを命じる御光章はマディーナで啓示されました。マッカ時代が 10 年ほど続いたことを計算に入れるなら、頭を覆うという命令が何年後に下されたものであるか計算できるでしょう。禁酒の命令もこれと似たものです。特に、飲酒は段階を経て禁止されていきました。この件に関して最初に啓示された章句は、「信仰する者よ、あなたがたが酔った時は、自分の言うことが理解出来るようになるまで、礼拝に近付いてはならない。」（婦人章第 43 節）でした。その後に啓示された章句では「かれらは酒と、賭矢に就いてあなたに問うであろう。言ってやるがいい。『それらは大きな罪であるが、人間のために（多少の）益もある。だがその罪は、益よりも大である。』」（雌牛章 219 節）とされ、絶対的な禁止事項であるとはされていません。この件に関して最後に啓示された章句は「あなたがた信仰する者よ、誠に酒と賭矢、偶像と占い矢は、忌み嫌われる悪魔の業である。これを避けなさい。恐らくあなたがたは成功するであろう。」（食卓章第 90 節）と、飲酒を完全に禁じています。ムスリムの皆様。利子の禁止も、これに似ています。これが禁止された経緯を知るためには、ビザンチン章 39 節、婦人章

160-161 節、イムラーン家章 130 節、雌牛章 275-279 節を検証することで足りるでしょう。そしてこれらの章句は全て、マディーナで、つまり 10 年以上も後になって啓示されたものなのです。クルアーンを細かく見ていくと、これらの命令や禁止事項の全てに、この漸進主義が適用されていることがわかるでしょう。なぜなら人は、ロボットではないからです。習慣にすること、断念することには一定の時間が必要なのです。だから、「かれが創造されたものを、知らないであろうか。かれは、深奥を理解し通曉なされる。」（大権章 14 節）アッラーは、

人間の特質に適したこの方式を望まれたのです。聖アーイシャは、このことに関して次のようにおっしゃられました。「もし、最初の啓示されたクルアーンの章句で飲酒が禁じられたとしたら、誰も飲酒をやめなかったでしょう。最初の啓示されたクルアーンの章句で姦淫が禁じられたとしたら、誰も姦淫をやめなかったでしょう。」

親愛なるムスリムの皆様。この方法は、現在においても通用するものです。ムスリムになったばかりの人、あるいはイスラームを研究中の人に、何の寛容さも示さず、直ちに命じられていること全てに従い、禁じられていること全てを放棄する必要があることを話せば、これはクルアーンの教え方にも、人間の本質にも反するものとなります。預言者ムハンマドの、「容易にしなさい、困難なものにしてはいけない。吉報をもたらしなさい、憎悪をもたらしてはいけない」という勧めは、このような状況において従われるべきものではないでしょうか。私たちが最初に語るのは、地獄の炎の恐ろしさではなく、天国の恵みの素晴らしさ、豊かさであるべきなのです。崇高なるアッラーは、純粋な意志をもったしもべを必ず導かれるでしょう。

アッラーが私たちに、責任の大きさを気づかせてくださいますように。アッラーの道において奉仕することができずように。アッラーの道は、奉仕されるに最もふさわしい道なのです。

